



# 目どるの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

## 地区内に住む全員が安心して暮らせるように! 第二団地町内会 自主防災組織

第二団地では、自主防災組織の活動と併せて地域の見守り活動を行っている。この見守り活動の中心となっているのが「地域見守りネットワーク」である。このネットワークは、団地内の高齢者の見守りを主な活動とする組織として、町内でもいち早く立ち上げられた。

自主防災組織の行う週3回の巡回に併せて行う、「地域見守りネットワーク」の見回りについて、「主な防災活動として地区内パトロールを行っていて、巡回では主に街灯が消えているところがないか、灯油缶を出しっぱなしにしている家がないかなどを見えています。また、見守りとしては、夜間電気がついていない家や、朝刊がしまわれない家がある場合には、区長などに報告をするようにしています」と自主防災組織の澤目会長は語る。

第二団地の自主防災組織のもうひとつの活動に、子どもたち

の見守りがある。小学生の下校時に団地内放送をしたり、車の通りが多い場所での立哨(りっしょう)を行ったりしている。「子どもたちも慣れてくると、帰りがけにはきちんと挨拶をしてくれるようになるんです」と大野副会長は笑顔でやりがいを話してくれた。

第二団地では、毎年変わる区長以下役員のほかに、常時活動に協力してくれる人を地区役員としてお願いしている。できる人が、できる限り協力することで、防災や見守り活動を継続的に行う工夫をしている。



学校がある日には毎日行われる下校時の立哨

## 毛呂山歴史散歩 第245回 毛呂山鉄道物語2 ～東武越生線～

毛呂山町の中央部を走る鉄道に「東武越生線」があります。

東武越生線の歴史は古く、昭和初期から貨物や旅客鉄道として利用され、今年で全線開通80周年を迎えました。

東武越生線は、昭和2年(1927)に設立された「越生鉄道」に始まります。開通当初は、高麗川で採れる砂利を運ぶことが目的で、坂戸町駅(現坂戸駅)から高麗川東岸の間で開通しました。

昭和9年(1934)12月、高麗川東岸の駅から越生駅までが開通したことにより、全線開通となり、貨物だけではなく旅客営業も始まりました。また、越生駅で八高線と接続したことで、旅客や貨物の移動が活発になりました。この当時はガソリ

ンカーで運行し、約30分かけて坂戸駅と越生駅間を1日9往復していました。月に5000人ほどの乗客を運んでおり、地域の足としても活躍しました。

昭和18年(1943)、戦時中の交通統制によって越生鉄道は東武鉄道と合併し「東武越生線」となりました。その後、昭和19年(1944)に戦争激化のため運転を休止しましたが、終戦後の昭和20年(1945)12月に再開。そして、高度経済成長期による沿線人口の急増にもない、運行本数も増加していき、昭和63年(1988)武州長瀬駅と東毛呂駅間が複線化されました。

時代の変化とともに、役割に変化はありますが、東武越生線は沿線の住民を支え続け、これからも走り続けます。



越生線開通当初に使われていたガソリンカー